

中施策評価書

作成日 令和07年 4月 11日

中施策事業名	景観形成事業（屋外広告物）	部課名	経済建設部・都市計画課
		作成者	中田 勝次
①めざすまちの姿	03 まちが明るく、地域の防犯活動が活発で、犯罪が少ない		
②大施策	明るく、地域の防犯活動が活発で犯罪が少ないまちをつくる		
③中施策	明るく死角が少ない街をつくる		
④中施策事業の対象	屋外広告物		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	良好な景観が形成されている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 景観行政 ・ 屋外広告物		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
違反広告物の除却 件数	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	10	5	5	5	0	0
	実績値	1	0				
単位	件						
	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額	
				令和05年度	令和06年度	令和07年度	
① 総事業費 (a+b)				0千円	0千円		
	a 事業費合計			0千円	0千円	0千円	
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人		
			b 金額	0千円	0千円		
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人		
			金額	0千円	0千円		
			人件費合計			0千円	0千円
		② 補助金等 (収入)				40千円	40千円
③ コスト (①－②)				-40千円	-40千円		
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				-1 円	-1 円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>A：計画通りに事業を進めることが妥当</p> <p>・除去件数実績は定期的なパトロールを実施している中で0件であるが、市内の除去をしなければならぬ違反屋外広告物が少なくなっている傾向である。また、定期的なパトロールをしている為、違反屋外広告物が少なくなっていると考えられる為、市内の良好な景観環境が形成されていると評価した。</p>
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	<p>・引き続き違反屋外広告物のパトロールを定期的に行い、発見した場合は違反広告物の除去と共に広告主に注意喚起を行う。</p>	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	<p>・除去とパトロールは継続して実施することが必要。他業務で現場に出る時も違反屋外広告物に注意を払う。</p>	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 10月 28日

中施策事業名	空家等対策事業	部課名	経済建設部・都市計画課
		作成者	中田 勝次
①めざすまちの姿	03 まちが明るく、地域の防犯活動が活発で、犯罪が少ない		
②大施策	明るく、地域の防犯活動が活発で犯罪が少ないまちをつくる		
③中施策	明るく死角が少ない街をつくる		
④中施策事業の対象	適正に管理されていない空家等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	特定空家等に該当するかどうかの判定を行い、是正指導を実施し、特定空家等の解消を図られている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 空家等対策協議会 ・ 空家対策一般 ・ 空家対策に係る国費・県費補助		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
特定空家等の件数	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	1	1	1	1	0	0
	実績値	2	1				
単位	件						
	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和05年度	令和06年度	令和07年度
① 総事業費 (a+b)				1,969千円	4,239千円	
	a 事業費合計			1,969千円	4,239千円	3,120千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計		0千円	0千円
		② 補助金等 (収入)				939千円
③ コスト (①－②)				1,030千円	2,739千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				15 円	40 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>A：計画通りに事業を進めることが適当</p> <p>特定空家が2件であったが、行政代執行により1件の解体を行った。</p> <p>もう1件の特定空家については、引き続き適正管理の指導を行っている。</p>
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	<ul style="list-style-type: none"> 行政代執行を行った特定空家については、引き続き手順に沿って徴収手続きを行う。 令和7年度からは、空家対策について市民への情報発信や近隣市町のスキームや条例等の情報を収集し空家対策の促進をする。 	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	<ul style="list-style-type: none"> 令和9年度に「豊明市空家等対策計画」の計画期間が終わる。よって、次期計画策定のために令和8年度に空家等実態調査業務を行う。 空家の取り組みに対するNPO法人等の民間との連携を構築するため、空家等管理支援法人制度の活用に関する市の方針を検討する。 	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 7月 2日

中施策事業名	都市計画道路整備事業	部課名	経済建設部・都市計画課
		作成者	中田 勝次
①めざすまちの姿	08 交通の利便性がよく、市外から人が移り住んだり、通勤・通学している		
②大施策	交通の利便性を高め、移住を促し、通勤・通学しやすくなるようにする		
③中施策	市内外の移動がしやすくなるように、道路交通網を整備する		
④中施策事業の対象	市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	市内の幹線道路である都市計画道路を整備され、市内交通の利便性が向上している		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・都市計画道路の計画及び調整 ・補助幹線道路の整備 ・都市計画道路の見直し、都市計画道路の設計施工及び監督 ・都市計画道路の用地取得 ・用地買収地管理 ・用地買収地の目的外使用 ・高規格道路の連絡調整 ・豊明インターチェンジの整備拡充 ・第二東名高速道路高架下の利用 ・都市計画事業に伴う土地の試掘等の許認可事務		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
都市計画道路整備率	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	78.3	78.3	78.3	78.3	0	0
	実績値	78.3	78.3				
	単位	%					
	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
	単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和05年度	令和06年度	令和07年度
① 総事業費 (a+b)				3, 523千円	27, 944千円	
	a 事業費合計			3, 523千円	27, 944千円	24, 104千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計		0千円	0千円
		② 補助金等 (収入)			0千円	0千円
③ コスト (①－②)			3, 523千円	27, 944千円		
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))			51 円	406 円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>A：計画通りに事業進めることが適当</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県道名古屋岡崎線に接続する、市道桜ヶ丘沓掛線の道路予備修正設計委託及び、用地調査業務委託を計画通り実施することができた。 ・ また、地区及び地権者に対する説明会を実施し、地域の声を聴くことと市の方針を示すことができた。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市道桜ヶ丘沓掛線の用地買収に向けた鑑定等を実施していく。 ・ 市全体の交通量を調査し、都市計画道路の見直しを行い将来像の整備をしていく。 ・ 平手豊明線の整備に向けた検討・準備。 	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市道桜ヶ丘沓掛線の用地買収、移転補償を実施し工事へと進めていく。 ・ 平手豊明線の整備に向けた予備設計及び地籍調査等。 ・ 大根若王子線の見直し結果に応じた都市計画決定。 	
今後、改善・拡大する事業	事業名 都市計画道路の見直し	内容、理由、時期等 大根若王子線の交通調査実施結果に基づく調整
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 6月 16日

中施策事業名	市営駐車場管理運営事業	部課名	経済建設部・都市計画課
		作成者	中田 勝次
①めざすまちの姿	09 空気がきれいである		
②大施策	きれいな空気を保全する		
③中施策	排気ガスの排出量を抑制する		
④中施策事業の対象	駐車場を利用する市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	駅前の駐車場の利用環境を整備することで利用台数を増やし、間接的に公共交通機関の利用を促進する		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 駐車場法に係る届出の受理及び監督 ・ 市営駐車場一般事務 ・ 市営駐車場修繕等事務 ・ 市営駐車場料金徴収事務全般		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
利用台数	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	23,000	23,000	23,000	23,000	23,000	0
	実績値	23,424	23,360				
単位	台						
	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和05年度	令和06年度	令和07年度
① 総事業費 (a+b)				2,377千円	2,094千円	
	a 事業費合計			2,377千円	2,094千円	2,561千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計		0千円	0千円
		② 補助金等 (収入)				0千円
③ コスト (①－②)				2,377千円	2,094千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				35 円	30 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	A 市内2箇所の月極め駐車場は、稼働率100%の状態を維持しており適正な事業実施が行われている。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	令和7年度も駐車場の適正管理に努め、利用者の満足度を維持するとともに稼働率100%を目指す。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	令和8年度以降も引き続き駐車場の適正管理に努め、利用者の満足度を維持するとともに稼働率100%を目指す。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 6月 16日

中施策事業名	緑化推進事業	部課名	経済建設部・都市計画課
		作成者	中田 勝次
①めざすまちの姿	10 日常生活は自然に親しむことができると同時に生活に不自由のないコンパクトシティになっている		
②大施策	自然を確保しながら生活に不自由のない街をつくる		
③中施策	市民とともに緑が続く環境をつくる		
④中施策事業の対象	公園や道路に設置された花壇やプランター		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	花を植栽し、憩いと安らぎのある環境をつくりだしている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・あいち森と緑づくり事業 ・ボランティア(花・アダプト) ・ペガサス財団との調整 ・二村山環境保全推進協議会 ・花壇維持補修修繕 ・花壇維持管理委託 ・グリーンフェスタ開催 ・種苗生産事業補助金 ・花いっぱい運動補助金 ・市民緑地 ・地域一括交付金 ・緑の募金 ・緑化コンクール ・緑の基本計画策定 ・開発指導要綱の緑地に関すること		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
フラワーボランティアが花壇に植えた花苗の数量	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	18,000	19,000	19,000	19,000	19,000	0
	実績値	21,682	23,183				
単位	苗						
	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額	
				令和05年度	令和06年度	令和07年度	
① 総事業費 (a+b)				3,919千円	5,948千円		
	a 事業費合計			3,919千円	5,948千円	8,355千円	
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人		
			b 金額	0千円	0千円		
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人		
			金額	0千円	0千円		
			人件費合計			0千円	0千円
		② 補助金等 (収入)				1,405千円	3,026千円
③ コスト (①－②)				2,514千円	2,922千円		
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				37 円	42 円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	A フラワーボランティア等と連携協力しながら市内の花壇で花苗の植え替えを実施し、緑化活動が推進されている。また、花と緑のフェスタやグリーンフェスタを開催し、緑化木の配布やハンギング講習会等を実施することにより、緑化の啓発活動も行われている。なお、令和6年度からグリーンフェスタの運営については、県費補助を受けて委託発注することになったため、前年度と比較してコストが増加している。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	より一層グリーンフェスタを盛り上げるため、会場を勅使水辺公園から中央公園に変更することを検討するとともに、イベント内容も見直しを行いながら来場者数を増やし盛況なイベントになるように努める必要がある。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	令和7年度のイベント状況を評価・分析することにより、イベントがさらに盛り上がるようにする必要がある。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 10月 28日

中施策事業名	公園緑地管理事業	部課名	経済建設部・都市計画課
		作成者	中田 勝次
①めざすまちの姿	10 日常生活は自然に親しむことができると同時に生活に不自由のないコンパクトシティになっている		
②大施策	自然を確保しながら生活に不自由のない街をつくる		
③中施策	日常生活の中で自然を実感できる環境をつくる		
④中施策事業の対象	公園、緑地		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	施設や樹木が適切に管理され、市民に安心安全な潤いのある空間を提供している		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・二村山緑地整備事業 ・公園施設維持管理業務（点検・修繕・工事） ・樹木剪定草刈委託 ・維持管理委託 ・公園の光熱水費、通信費、手数料、保険料、負担金 ・土地借上げ ・公園台帳 ・占用許可、公園内行為許可、公園使用料 ・非常勤一般職員		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
樹木剪定や草刈りをした公園・緑地の箇所数	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	65	66	67	68	0	0
	実績値	66	66				
単位	箇所						
	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和05年度	令和06年度	令和07年度
① 総事業費 (a+b)				126, 994千円	130, 226千円	
	a 事業費合計			126, 994千円	130, 226千円	132, 911千円
	人 件 費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			0千円	0千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				126, 994千円	130, 226千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				1, 845 円	1, 892 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>B</p> <p>指定管理者による管理が3年経過し、サービスは年々向上しているものの、特に草刈や樹木剪定においては市民から苦情を受けることもあり、残り2年の指定管理期間の中で更なるサービス向上に努める必要がある。指定管理については、指定管理者と市が連携協力し合える体制を構築し、一丸となって取り組む必要がある。</p> <p>一方で指定管理者による各種イベントは大変盛況であり、市内の賑わい創出に寄与している。</p>
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	令和6年度に引き続き令和7年度も定期的に指定管理者と打合せを行いながら情報を共有するとともに、公園パトロールで把握した状況についても速やかに共有することで苦情をもらう前に対応できる体制づくりを行う。駐車場の目的外利用が常態化している唐竹公園駐車場においては、適正利用を促進する観点から指定管理者の自主事業による駐車場の有料化を実施する。次期指定管理に向けてのサウンディングを実施する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	指定管理の最終年度のため、指定管理者のノウハウを最大限発揮してもらうとともに、適正な維持管理に努める。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 4月 18日

中施策事業名	都市計画事業	部課名	経済建設部・都市計画課	
		作成者	中田 勝次	
①めざすまちの姿	10 日常生活は自然に親しむことができると同時に生活に不自由のないコンパクトシティになっている			
②大施策	自然を確保しながら生活に不自由のない街をつくる			
③中施策	生活利便性の高い街をつくる			
④中施策事業の対象	市全域			
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	都市計画に関する現状が整理され、適正な都市計画が進められている			
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・都市計画の決定、変更 ・都市計画マスタープラン ・都市計画基礎調査 ・都市計画審議会 ・立地適正化計画 ・プロジェクトチーム ・社会実験			

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
市街化区域内の人口（百人未満切上げ）	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	54,500	54,500	54,500	54,500	0	0
	実績値	52,500	52,500				
単位	人						
	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和05年度	令和06年度	令和07年度
① 総事業費 (a+b)				16,476千円	9,456千円	
	a 事業費合計			16,476千円	9,456千円	15,230千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計		0千円	0千円
		② 補助金等 (収入)			0千円	0千円
③ コスト (①－②)			16,476千円	9,456千円		
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))			239 円	137 円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	指標の内容を見直す必要がある	△	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>A:計画通りに事業を進めることが適当。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第4次都市計画マスタープランについては、「都市計画マスタープラン」「立地適正化計画」「緑の基本計画」の3計画を統合したものを策定していく。今年度は、各計画の課題を整理し、業者選定のプロポーザルを実施することができた。 ・間米南部地区及び防災拠点地区（藤田学園）に係る地区計画も順調に進めることができた。 ・10年後のまちの将来像の実現のため、前後駅で滞留、にぎわいに関する社会実験を実施した。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	<ul style="list-style-type: none"> ・第4次都市計画マスタープランの策定 ・立地適正化計画に基づく都市計画事業の認可みなし制度 ・防災拠点地区（藤田学園）に係る地区計画の施行 ・社会実験の実施 ・豊山周辺地区に係る都市計画提案制度 	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	<ul style="list-style-type: none"> ・第4次都市計画マスタープランの策定及び、第3次都市計画マスタープランの最終年度における評価を実施 ・地籍調査事業 ・立地適正化計画に基づく都市計画事業の認可みなし制度 ・社会実験の実施 	
今後、改善・拡大する事業	事業名 社会実験	内容、理由、時期等 公共施設のあるべき姿を創るため社会実験を通して検証していく。 (昨年度より実施)
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 11月 11日

中施策事業名	土地区画整理事業	部課名	経済建設部・都市計画課
		作成者	中田 勝次
①めざすまちの姿	10 日常生活は自然に親しむことができると同時に生活に不自由のないコンパクトシティになっている		
②大施策	自然を確保しながら生活に不自由のない街をつくる		
③中施策	生活利便性の高い街をつくる		
④中施策事業の対象	市民及び転入者		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	市民及び転入者が住み続けたいと感じるような市街地が整備されている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 住居系新市街地整備（寺池地区） ・ 住居系新市街地整備（間米南部地区） ・ 都市構造再編集集中支援事業（まち交）		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
土地区画整理事業によって整備された市街地の面積（市全域）	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	358.68	358.68	358.68	0	0	0
	実績値	358.68	358.68				
単位	ha						
新たに住居系の土地利用が可能となった区域の都市計画決定面積	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	26	26	26	0	0	0
	実績値	26	26				
単位	ha						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額	
				令和05年度	令和06年度	令和07年度	
① 総事業費 (a+b)				265,940千円	460,000千円		
	a 事業費合計			265,940千円	460,000千円	1,773,859千円	
	人 件 費	正規職員	人数	0 人	0 人		
			b 金額	0千円	0千円		
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人		
			金額	0千円	0千円		
			人件費合計			0千円	0千円
		② 補助金等 (収入)				57,000千円	325,100千円
③ コスト (①－②)				208,940千円	134,900千円		
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				3,036 円	1,960 円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>A：計画通りに事業を進めることが適当。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寺池地区は計画通りに進んでおり、令和6年度は住宅及び、生活利便施設の建設工事が始まり、まちなみが変わる期待感が高まっている。 ・間米南部地区は令和6年11月より本格的な工事が始まった。 ・都市構造再編集中支援事業は、各事業を計画通りに進めることができた。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	<ul style="list-style-type: none"> ・寺池地区は事業の結了に向けた事業計画の変更、換地計画の作成を行うため組合を指導・監督していく必要がある。 ・間米南部地区においても事業進捗や地区内外の住民への十分な説明など、組合及び業務代行者を指導・監督していく必要がある。 ・都市構造再編集中支援事業は、最終年度になるため、第2期の実施の検討が必要になる。 	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	<ul style="list-style-type: none"> ・寺池地区及び、間米南部地区は事業の遅延がないように組合及び、業務代行者を指導・監督する。 ・都市構造再編集中支援事業は、ノースセントラル地区の第1期の事後評価の実施をしなければならない。 	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 4月 18日

中施策事業名	住宅・建築物耐震化促進等安全ストック形成事業	部課名	経済建設部・都市計画課
		作成者	中田 勝次
①めざすまちの姿	19 防災を行政任せにせず、普段から家庭と地域の準備と連携が十分できており、災害時には助け合うことができる		
②大施策	災害に備え、家庭と地域の準備と連携ができ、災害時には自発的に助け合えるよう支援する		
③中施策	災害に備えて家庭での準備を促す		
④中施策事業の対象	旧基準の住宅・建築物		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	大地震が発生しても倒壊しないよう住宅・建築物の耐震化を図る		
⑥中施策事業を構成する事務事業(手段)	・建築防災一般 ・住宅・建築物の耐震診断・改修 ・住宅・建築物の耐震化促進に係る普及・啓発 ・宅地耐震化推進事業 ・建築防災に係る国・県補助金		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
耐震改修工事補助件数（H27年度からの累計）国・県の補助事業が令和7年度まで	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	105	112	119	126	0	0
	実績値	66	74				
	単位 件						
啓発活動累計回数	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	45	50	55	60	0	0
	実績値	45	50				
	単位 回						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和05年度	令和06年度	令和07年度
① 総事業費(a+b)				29,003千円	12,446千円	
	a 事業費合計			29,003千円	12,446千円	21,396千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			0千円	0千円
② 補助金等（収入）				22,238千円	9,334千円	15,541千円
③ コスト（①－②）				6,765千円	3,112千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				98 円	45 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	A:計画通りに事業を進めることが適当 啓発活動として、①耐震ローラ作戦 ②DM送付 ③防災フェスタ ④日進市合同勉強会を実施した。 ・国費、県費の拡充の有無を確認し、現状の補助制度の見直しをおこなった。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	・耐震改修促進計画の中間目標である令和7年度に耐震化率95%に向けて、現状値89%から如何に取り組むを行うか引き続き検討する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	・耐震改修と空家対策、同居近居をセットにしたスキームを補助事業として考えていく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 4月 28日

中施策事業名	定住促進関連事業	部課名	経済建設部・都市計画課
		作成者	中田 勝次
①めざすまちの姿	28 子どもを産み育てやすいまちになっており、子どもの数が増えている		
②大施策	子どもを安心して産み育てられるまちをつくる		
③中施策	仕事と子育ての両立ができる環境をつくる		
④中施策事業の対象	子育て世帯、又はその親世帯		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	子育て世帯とその親世帯が同居または近居することで、子育てしやすい環境づくりが図られている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・多世帯同居等補助事業 (多世代同居・近居に係る固定資産税相当額一部補助)		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
補助申請のうち、 市外からの転入件 数	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	35	35	0	0	0	0
	実績値	26	28				
単位	件						
	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和05年度	令和06年度	令和07年度
① 総事業費 (a+b)				15, 443千円	13, 568千円	
	a 事業費合計			15, 443千円	13, 568千円	9, 000千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			0千円	0千円
	② 補助金等 (収入)				0千円	0千円
③ コスト (①－②)				15, 443千円	13, 568千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				224 円	197 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	統合や廃止、新規事業を検討する	×	C
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	C：制度の見直し検討をする。 市外からの転入件数が目標達成できなかった。 目標の件数は達成できなかったが一定の役割を果たせてくれた。 しかしながら、申請者アンケート結果より、本制度によって親・子世帯でふれあう機会が増えたというご意見が多数ある一方で、本市で住宅を取得するきっかけになっていると言いきれない結果から、定住促進事業として役割を果たしているか疑問が残る。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	立地適正化計画の誘導施策に変えて、新しい補助制度を検討する。 多世帯同居等補助事業の廃止と縮小。 (令和7年度から新規受付停止、R8年度まで補助を行う)	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	新制度策定と多世帯同居等補助事業終了の周知を行う。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称) まちなか定住促進補助金事業	内容、理由、時期等 立地適正化計画の居住誘導区域への定住を促す。また、子育て世帯を誘導できる施策をつくる。令和9年度予定
今後、休廃止する事業	事業名 豊明市多世代同居・近居にかかわる固定資産税相当額一部補助事業	内容、理由、時期等 新制度創設に伴い、定住促進関連事業全体に見直しのため(令和7年度から順次縮小、令和8年度まで)

中施策評価書

作成日 令和07年 10月 28日

中施策事業名	公園施設整備事業	部課名	経済建設部・都市計画課
		作成者	中田 勝次
①めざすまちの姿	29 子どもが元気に外で遊んでいる		
②大施策	子どもが元気に外で遊べるまちをつくる		
③中施策	身近に安心して遊べる場所を整備する		
④中施策事業の対象	公園		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	老朽化した公園施設の改修や新たな公園整備により、市民が憩える場所が整っている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・公園施設改修事業 ・社会資本総合整備事業、市町村土木補助事業 ・公園・緑地の 用地買収		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
改修工事を実施した公園の数（累計）	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	8	9	10	11	0	0
	実績値	8	9				
単位	箇所						
	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和05年度	令和06年度	令和07年度
① 総事業費 (a+b)				68,708千円	100,381千円	
	a 事業費合計			68,708千円	100,381千円	151,358千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計			0千円
② 補助金等 (収入)				6,153千円	63,629千円	31,613千円
③ コスト (①－②)				62,555千円	36,752千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				909 円	534 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	A 地域住民の意見を反映しながら街区公園の改修が進められている。 また、令和6年度からは三崎水辺公園の大規模リニューアル事業を実施しており、市民の憩いの場として安全安心で利用しやすい魅力的な公園の再整備が進められている。三崎水辺公園の大規模リニューアル事業については、クラウドファンディング（ふるさと納税）や企業版ふるさと納税による寄附を活用しながらコスト縮減に努めている。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	令和7年度も街区公園の改修に向けた地元との調整を行いながら公園利用者の満足度を高める取り組みを行う。特に三崎水辺公園の大規模リニューアル事業は最終年度になるため、引き続き安心安全な工事に努める。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	街区公園レベルの公園改修は令和8年度で廃止し、令和8年度から公園遊具を対象とした遊具の長寿命化対策を進めていく。また、地区公園レベルの大規模リニューアル事業も合わせて実施することにより、市内居住者の遊び場や憩いの場を提供していく必要がある。また、老朽化により通行禁止措置を講じている坂畑公園の人道橋については、地元の意見も踏まえて撤去する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称) ・公園再整備事業 ・公園遊具長寿命化事業	内容、理由、時期等 ・地区公園レベルの中規模公園の再整備を検討する ・遊具の老朽化が進んでいるため長寿命化計画に基づいた計画的な更新または修繕を進める
今後、休廃止する事業	事業名 公園施設改修事業	内容、理由、時期等 多くの公園で遊具の老朽化が進んでおり、毎年1公園のリノベーション事業では対応が追い付かないため、公園遊具長寿命化事業に切り替えが必要

中施策評価書

作成日 令和07年 4月 18日

中施策事業名	工業団地整備事業	部課名	経済建設部・都市計画課
		作成者	中田 勝次
①めざすまちの姿	32 市内に遊ぶ場所や働く場所があり、豊明市が潤っている		
②大施策	地域の経済活動が盛んなまちをつくる		
③中施策	産業の活性化を図る		
④中施策事業の対象	市民及び転入者		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	市民及び転入者が働きたいと感じるような産業用地が確保されている。		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 柿ノ木工業団地整備 ・ 都市計画提案制度		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
産業用地確保に取 組む面積	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	62	62	62	0	0	0
	実績値	62	62				
	単位 h a						
地権者の合意状況	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	100	100	100	0	0	0
	実績値	85	85				
	単位 %						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額	
				令和05年度	令和06年度	令和07年度	
① 総事業費 (a+b)				9,991千円	10,812千円		
	a 事業費合計			9,991千円	10,812千円	3,899千円	
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人		
			b 金額	0千円	0千円		
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人		
			金額	0千円	0千円		
			人件費合計			0千円	0千円
		② 補助金等 (収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)			9,991千円	10,812千円			
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				145 円	157 円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>B：計画通りに事業を進めることが適当。</p> <ul style="list-style-type: none">・柿ノ木工業団地は、引き続き都市計画道路名古屋岡崎線の道路整備と連携協力しながら円滑に事業を進めることができた。・豊山周辺地区は、都市計画提案制度を想定したまちづくりガイドライン（策定済）に沿った民間開発の誘導を進めている。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	<ul style="list-style-type: none">・柿ノ木工業団地は、令和7年10月の分譲地の引渡しをもって事業終了になる。引き続き愛知県企業庁とともに円滑に事業を進めていく。・豊山周辺地区の都市計画提案制度が提出された場合、調整及び手続きが必要である	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	<ul style="list-style-type: none">・豊山周辺地区の都市計画提案制度が提出された場合、調整及び手続きが必要である。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等